

2022. 12. 16

【日本貿易統計（22 年 11 月）】

資源高と円安基調の一巡で輸入金額の伸びが縮小

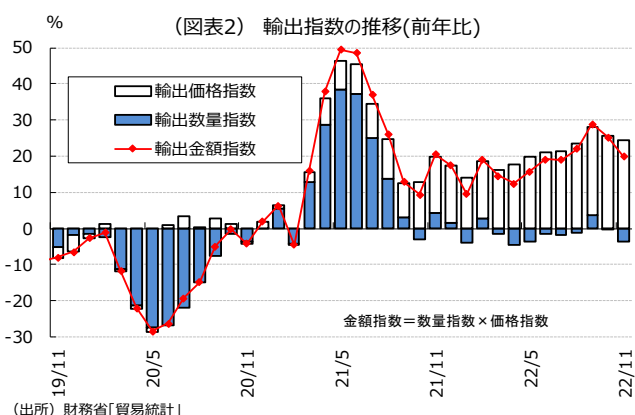
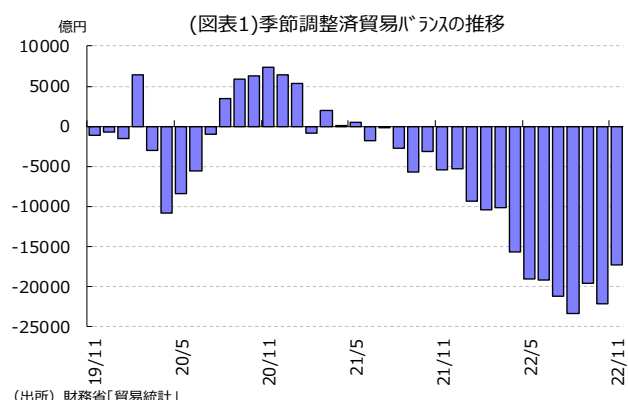
～先々の輸出は軟調な推移と予想～

経済調査部 エコノミスト 木村 彩月

1. 季調済の貿易収支は 18 ヶ月連続の赤字

財務省から発表された 11 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+20.0%と、前月の同+25.3%から伸びが鈍化した。輸入金額も同+30.3%と、前月の同+53.5%から伸び幅が大きく縮小した。

季調済前月比を見ると、輸出金額が▲1.3%、輸入金額が▲5.3%と、どちらも低下した。季調済の貿易収支は▲1兆7,323億円と、依然として高水準の貿易赤字が続いており、今月で 18 ヶ月連続の赤字となった。ただ、輸入金額のマイナスが輸出金額のそれを上回った結果、赤字額は今年 5 月以来の水準まで縮小した（図表 1）。

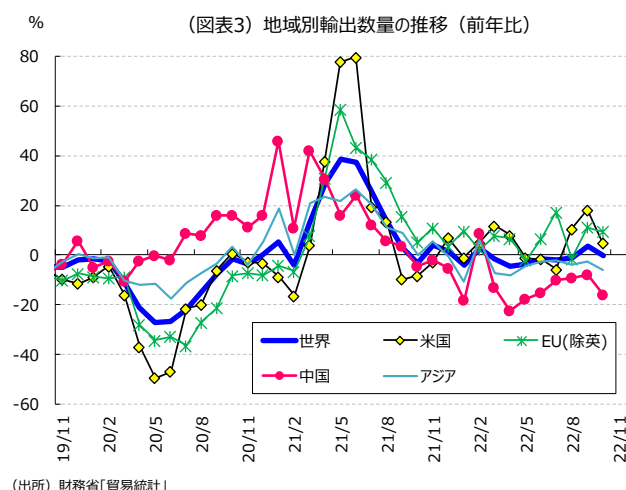


2. 主要相手国への輸出は軒並み減少

輸出金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+24.4%であったのに対し、数量指数が同▲3.6%と 2 ヶ月連続のマイナスであった。輸出金額が価格指数の高い伸びによって押し上げられるという構図に変化はみられなかった（図表 2）。

品目別の輸出数量を見ると、医薬品（10 月：前年比+20.8%→11 月：同+29.6%）等が伸びを拡大させた一方、自動車（同+27.5%→同+10.3%）の伸びが前月から縮小した。また、半導体等電子部品（同▲4.6%→同▲19.4%）のマイナス幅が拡大したほか、半導体等製造装置（同+5.5%→同▲1.0%）もマイナスに転じるなど、幅広い品目で鈍化している。自動車や半導体については、供給不足が長引いている影響のほか、世界的な景気減速の影響が現れ始めている可能性もある。

主要相手国・地域別の輸出数量指数を見ると、米国向けが同+1.0%（10 月：同+4.8%）、EU（除英）向けが同+9.0%（同+9.4%）とプラス幅が小幅縮小したほか、中国向けは



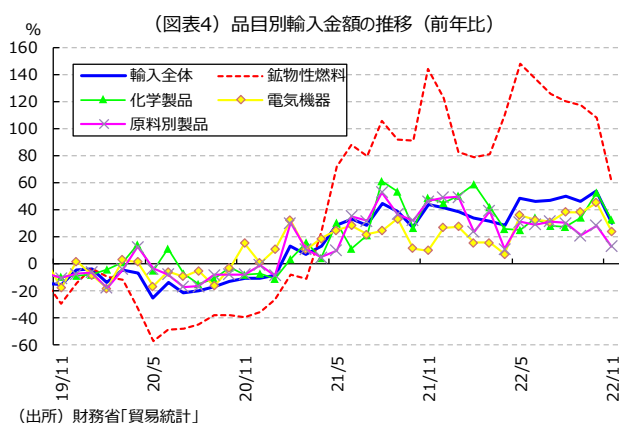
同▲16.4%（同▲16.0%）とマイナス幅が小幅拡大した（図表3）。

米国向けとEU（除英）向けは、どちらも2ヵ月連続で伸びが鈍化した。米国向けは、主要輸出品である自動車と同+1.7%と、前月（同+25.7%）から伸び幅が縮小したことが影響した。EU（除英）向けは、鉄鋼が同+329.7%と高い伸びとなったものの、半導体等電子部品等、他の品目の伸びが縮小した影響が上回った。

中国向けは9ヵ月連続のマイナスで、軟調な推移が続いている。中国では、コロナ感染が拡大した地域で行動規制が続いたことが、経済活動の停滞につながっている。特に11月は、コロナの国内新規感染者数が過去最高まで急増、規制が広範囲に広がったことが響いたとみられる。

3. 輸入金額は資源高と円安基調一巡で伸びが縮小

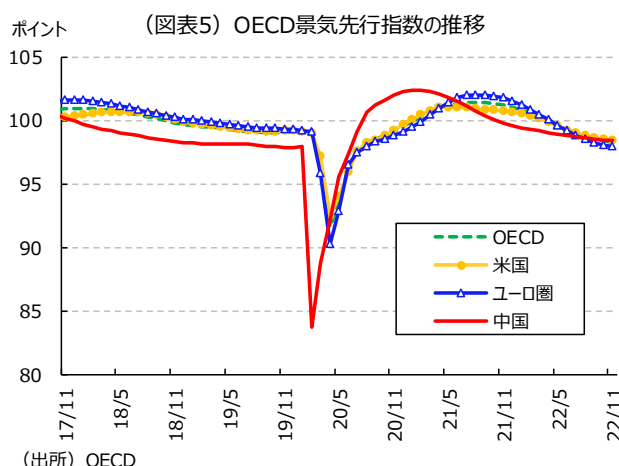
輸入金額の前年比を価格と数量に分解すると、数量指数が前年比▲4.6%と2ヵ月ぶりにマイナスに転じる一方、価格指数が同+36.6%と、前月（同+45.3%）から伸びが鈍化した。金額ベースで品目別に見ると、最も大きな構成比（約29%）を占める鉱物性燃料が同+60.8%と、前月（同+108.0%）から大きく伸び幅を縮小させたことが影響した（図表4）。内訳を見ると、原油及び粗油（10月：同+97.1%→11月：同+69.7%）や、液化天然ガス（同+150.9%→同+51.9%）、石炭（同+154.0%→同+106.8%）などの伸び幅が前月から大きく鈍化している。伸び幅自体は依然として大きい



大きい、これは価格要因である。数量ベースでは、石炭（同▲10.3%）、液化天然ガス（同▲5.4%）などが減少しているほか、原油及び粗油（同+8.1%）も増加してはいるものの、金額ベースの伸びを大きく下回った。金額ベースの伸び縮小は、円安基調の一巡に加え、原油価格等が一時期に比べ落ち着いていることが影響している。世界的な景気減速を背景に資源需要が低下していることで、資源価格が下押しされている現状などを踏まえれば、前年比でみた全体の輸入金額の伸びは今後縮小する可能性が高い。

4. 今後の輸出は軟調な推移をたどると予想

OECD 景気先行指数を見ると、日本の主要な貿易相手国は軒並み低下基調となっている（図表5）。米国は、FRB（米連邦準備制度理事会）による大幅な利上げに伴い、来年前半にかけて景気後退懸念が高まっている。欧州も、エネルギー価格高騰を主因とする物価の高止まりが続くなか、ECB（欧州中央銀行）が利上げを継続することで、景気が下押しされている。中国については、コロナ感染症防疫のための規制が一部緩和されたことで、足元では首都北京を中心に感染が急拡大しているとみられており、先行き不透明感が高まっている。主要な貿易相手国の景気が軒並み低迷する可能性が高いなか、数量ベースでみた日本の輸出は、今後も軟調な推移をたどると予想する。



※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。
掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411